

Fureai

Fujita Related All Information

2025 11.1
Vol.
308

第7期中期経営計画
ホスター完成

新規事業室
ピッチコンテスト開催

【レポート・お知らせ】
育児・介護休業法改正／ほけんだより
コイル転倒防止架台 展示会に出展
大阪・関西万博を視察

第7期中期経営計画 LEAD THE REGION 2030 の ポスターが完成しました!

2025年度よりスタートした第7期の中期経営計画は、2030年に向けての6カ年で地域を牽引する企業を目指していきます。2030年のありたい姿として、以下の3つを掲げています。

- 地域のものづくりを支え続ける地域No.1のサプライヤーになる
- ステークホルダーが共に働きたい、人がここにいて成長したい、と思う会社になる
- 供給体制の全体最適化・周辺多角化によって稼ぐ力を伸ばし、償却前営業利益30億円を目指す

ありたい姿を実現するために、「事業構造の変革」「付加価値の獲得」「オペレーションの効率化」「あらたな収益源の創造」を事業戦略として、一人ひとりが自身の役割レベルの向上と、会社との相互理解や信頼関係の構築が求められます。第7期の中期経営計画のロゴやステートメントがデザインされているポスターは、2030年のありたい姿を全社員で共有し、目指していけるよう制作されました。

【ステートメント】

鉄鋼流通業界に強く吹きつける時代の風。
私たちを取り巻く環境は、さらに厳しさを増しています。
この3年間、「需要減少」という逆風のなかでも
1トンあたりの付加価値を高め、
数量減の抑制が奏功したこと、基礎収益力を向上させました。
3年間で得た短・中期の成果を
いかに次のステージへつなげていくか。
藤田金属は、未来を見据えた長期的な課題にも挑むために、
大きな変革に踏み出そうとしています。

今こそ、「Lead the Region 2030」

激化する競争のなかで勝ち抜き、
地域ごと、品種ごとにNo.1になること。
そして、それが到達した“いちばん”的な先で、
お取引先様から“いちばん”必要とされる存在になり、
地域と社会を牽引すること。
それが、私たちの目指す姿です。
そのために、既存事業では支店ごとの地域最適を追求し、
事業構造も抜本的に見つめ直します。
さらに、新規事業では新たな市場に挑戦し、
かつてないサービスを提供していきたい。
これから6年間でダイナミックな投資を実行しつつ、
持続的に営業キャッシュフローを生み出せる体制を築き、
事業構造の変革を必ずやり遂げます。

藤田金属はこれからも、
鉄というインフラで、
地域社会をリードしていきます。



鉄鋼流通業界に強く吹きつける時代の風。
私たちを取り巻く環境は、さらに厳しさを増しています。
この3年間、「需要減少」という逆風のなかでも
1トンあたりの付加価値を高め、
数量減の抑制が奏功したこと、基礎収益力を向上させました。
3年間で得た短・中期の成果をいかに次のステージへつなげていくか。
藤田金属は、未来を見据えた長期的な課題にも挑むために、
大きな変革に踏み出そうとしています。

今こそ、「Lead the Region 2030」

激化する競争のなかで勝ち抜き、
地域ごと、品種ごとにNo.1になること。
そして、それが到達した“いちばん”的な先で、
お取引先様から“いちばん”必要とされる存在になり、
地域と社会を牽引すること。
それが、私たちの目指す姿です。
そのために、既存事業では支店ごとの地域最適を追求し、
事業構造も抜本的に見つめ直します。
さらに、新規事業では新たな市場に挑戦し、
かつてないサービスを提供していきたい。
これから6年間でダイナミックな投資を実行しつつ、
持続的に営業キャッシュフローを生み出せる体制を築き、
事業構造の変革を必ずやり遂げます。

藤田金属はこれからも、
鉄というインフラで、
地域社会をリードしていきます。

藤田金属株式会社
中期経営計画 2025年4月～2031年3月

【ポスターデザインのコンセプト】

第6期の中期経営計画の三角モチーフを立体的に進化させ、紙飛行機として表現をしています。

飛び立つ紙飛行機は、変化の激しい業界環境の中でも未来に向かって前進する姿を表しています。また、紙飛行機の影に前中期経営計画の平面の三角を忍ばせることで、これまでの歩みを継承しながらも、次のステージへ進化していることを示唆しています。

構図は余白を活かしたシンプルな構成とし、情緒的な余韻を持たせながら、リードしていく企業姿勢を印象づけています。

第7期の中期経営計画のロゴは、シンプルな背景に「LEAD THE REGION」を明確に表現し、ステートメントは黒い文字で読みやすく仕上げました。

新規事業室 ピッチコンテストを開催

代表取締役副社長 兼 新規事業室長 今井 雄介

2025年10月20日に藤田金屬 新規事業室のピッチコンテストが開催され、社内外総勢65名が出席。新規事業室メンバーの4名3チームによるピッチ発表に加え、新規事業に関するトークセッションが行われました。2024年9月に新規事業室を新設してから1年、かくも盛大にイベントを執り行えたこと、加えて藤田金屬の新たな取り組みについて、多くの皆さんに共有できたことを、大変嬉しく思っています。

藤田金屬では今年、2030年に向けた新中期経営計画の中で、新たな収益源を創造していくことを掲げました。こうした課題感は数年前から感じていましたが、「経営トップが何も挑戦をせず、みんなに考えてと言っても誰もついてこない」と社長と話をしてから、経営主導で「テンテコ」「ふるまち樽拳」「新潟の工場女子」を立ち上げました。そして昨年、役員で行っていた「すごい会議(FX)」の中で、新規事業創造の必要性が再浮上し、2024年9月に、満を持して新規事業室を新設するに至りました。

初めは、いろいろな企業にヒアリングをしながら、組織目標の設定・運用方法の検討を行い、並行してメンバーを選定。4名の皆さんに新規事業室に参画してもらいました。その後、①ポジティブマネジメント ②再現可能なフレームワークを持っている ③所在が新潟県内の企業であること等を条件に、伴走コンサルを選定。Socialups(株)に出会いました。同社は、私たちの思いや意図を深いところまで汲み取り、契約してからの間、新規事業室メンバー一人ひとりに対し、真摯に向き合ってくれました。正直、同社との契約後、私はほとんど手放し状態だったのですが、それでも大丈夫と思えるほどに信頼できる最高のパートナーでした。

新規事業室の4名の皆さんには、各々既存業務と兼務する環境の中での活動でしたが、本当に頑張ってくれました。会うたびに事業案が変わっていたり、聞き慣れない横文字の専門用語を当たり前に使うようになっていました。「こんなセミナーに行ってきました」とか「こんな人にリサーチで会ってきました」とか、とにかく考え、行動を起こしながら成長していく皆さんに、私もたくさんの刺激をもらいました。特に最後の1ヶ月間は、皆さん寝る間も惜しんでよく頑張りましたね。皆さんに経験した、この辛くて苦しくて、たまに楽しかった日々は、必ずや今後のキャリアや人生の糧となるでしょう。さらなる検討を進めることになりますが、これからもよろしくお願いします。ひとまず、本当にお疲れさまでした!

最後にこの一日を終えてみて、私は藤田金屬のポテンシャルの高さを再認識すると同時に、「この会社はまだまだ成長していく」と、そう感じました。その理由は大きく2つあります。

1つ目は、これだけのクオリティーの事業案を、ボトムアップで創造できたということ。そしてこれを新規事業室メンバーの4名が証明し、藤田金屬の新規事業室として一歩目の成功体験が積み上げられたことです。こうした事業案を自社で創造可能な新潟県内企業や鉄鋼業界の企業は、多くはなく、他社との違いになり得るという点で、皆さんに対して人的ポテンシャルの高さを感じました。

2つ目は、「仲間の挑戦を応援したい」「新しいことに興味がある」、そんな思いを持った社員が、会場に50名+WEB参加と、大勢してくれたことです。前回の社内報にも書きましたが、私は新規事業を推進するうえで『事業案や関わる人の数(n数)』と『風土醸成』が重要であると考えてきました。こうした中で、多くの皆さんに参加してくださり、懇親会では若手・中堅・ベテラン関係なく、ピッチコンテストの感想や新規事業に関する話題、発表者を労う姿が至る所で見られ、まさに私たちがつくりたかった景色が目の前に広がっていました。

これらの理由から、フジタの未来は間違いない明るい。そう確信した次第です。これから新規事業室では、継続検討となつた3案の深掘りや、この1年間の振り返りや検証をしながら、来年の準備をSocialups(株)と共に進めていく予定です。今回のイベントを通じて、新規事業室に興味を持ってくれた人が少しでもいたのなら、本当に嬉しい限りです。あなたも、フジタの新たな可能性を、未来を、一緒に創造してみませんか？ 皆さんの新規事業室Season2へのご応募・推薦をお待ちしています！

育児・介護休業法改正について

(2025年10月1日より施行)

育児・介護休業法が改正され、2025年4月1日より段階的に施行が始まっておりますが、10月1日からは、育児期の「柔軟な働き方」を実現するための制度が開始されました。

<10月1日からの主な改正ポイント>



柔軟な働き方を実現するための措置の新設

3歳～小学校就学前の子を養育する従業員に対し、以下の3つの措置を講じます。
従業員は、会社が講じた措置の中から1つを選択して利用することができます。

～当社の3つの措置～

- ① 始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げ(時差出勤)
- ② 短時間勤務制度(所定労働時間を1日6時間とする)
- ③ 在宅勤務

3歳未満の子を養育する従業員に対して、子が3歳の誕生日の1ヵ月前までの1年間に、上記措置の周知、制度利用の意向確認を個別に行います。



仕事と育児の両立に関する個別の意向聴取・配慮の新設

従業員本人または配偶者が妊娠・出産等を申し出た時と、子が3歳になるまでの適切な時期に、会社は従業員に対して、仕事と育児の両立に関する事項(勤務時間帯、勤務地等)についての意向聴取を個別に行います。会社の状況により、聴取した従業員の意向に沿った対応ができない場合は、その理由を従業員に丁寧に説明し、適切な対応を行います。

ほけんだより



保健師

冬に向けての体調管理

～感染症対策・食生活・お酒との付き合い方を見直そう～



感染症対策

朝晩の冷え込みが強まり、体調を崩しやすい季節です。インフルエンザやノロウイルスの流行に備え、手洗い、アルコール消毒、加湿、十分な睡眠、栄養バランスの良い食事をとつて、免疫力を高めましょう。また、外出後や共用物に触れた後は手洗いを徹底し、石けんで丁寧に洗いましょう。人混みや公共交通機関ではマスクを着用し、咳やくしゃみをする際はハンカチや服の袖で口を覆うなど、咳エチケットを守りましょう。ノロウイルスは嘔吐物や便から感染するため、処理をする際は塩素系消毒剤を使用し、必ず使い捨て手袋・マスクを着用して行ってください。処理後はしっかりと手を洗いましょう。



食生活・飲酒

年末年始は食生活が乱れがちです。お餅や甘い物の食べ過ぎに注意し、主食・主菜・副菜の組み合わせを意識しましょう。また、「野菜から食べる」「ながら食べを控える」「1日1回は体を動かす」といったことを心がけるなど、工夫して健康を維持しましょう。また、お酒の席が増える時期もあります。適度な飲酒量の目安は、純アルコール20g／日平均(ビール中瓶1本、日本酒1合)です。つぎ足し飲みを避け、1杯ずつ自分のペースで楽しみましょう。

季節の変わり目は疲れも出やすい時期です。「しっかり寝る・食べる・休む」を心がけ、元気に冬を乗り切りましょう。

コイル転倒防止架台 展示会に出展

薄板企画室として「コイル転倒防止架台」を展示会へ出展し始めたのは、新型ウイルス禍が少し落ち着いた2022年度からです。社内でもまだご存じない方が多いかもしれません、薄板事業部の重点課題の一つとして始まったこの取り組みは、今年度で4年目を迎えました。

販売全体では、まだまだ道半ばで、年間販売目標の300台には届いていません。決して胸を張れる実績とは言えませんが、展示会への出展を始めた2022年度の22台から、2023年度は33台、2024年度は67台、そして2025年度上期は年間換算で約66台ペースと、少しずつ販売台数が伸びてきています。展示会への出展が、確実に良い影響をもたらしていると感じています。

展示会では、その場で商談が進むことはあまり多くなく、主にお客さまの置き場や物流に関する困りごとや相談を伺うことが中心です。そこから具体的な商談に繋がっていくケースは少ないのでですが、その要因として、提案できる商材が「スリットコイル架台」一択であることが挙げられます。こうした問題点を踏まえ、これまで以上にお客さまの声にしっかりと耳を傾け、一つでも多くの課題解決に繋げられるように展示会に臨みたいと思います。

話が少し逸れましたが、なぜ展示会の効果を感じているのかというと、「展示会出展の新聞記事」が多くの方の目に留まり、関心を集めているからです。インターネット上では新聞を“オールドメディア”と呼ぶこともあります、鉄鋼業界ではまだまだ新聞の影響力は大きいです。北は北海道、南は福岡県まで、記事を読んだ大手商社や競合他社など、これまで取引がなかった企業からも幅広く問い合わせをいただくようになりました。その結果、少しずつですが成約件数も増えてきています。引き合いがなければ商談は始まりません。引き合いをいただくきっかけになっているのが「展示会出展の新聞記事」だと実感しています。

まだまだ課題はたくさんありますが、今後は提案できる商材の幅を広げながら、展示会の場を通じてお客様との繋がりをより深めていきたいと思います。これからも温かく見守っていただければ幸いです。

大阪・関西万博を観察

9月13日に得意先の研修会に参加させてもらい、大阪・関西万博に行ってきました！会場に向かうと徐々に見えてくる「大屋根リング」は、世界最大の木造建築物としてギネス世界記録にも認定された万博のランドマーク。実際に見るとその巨大さに感動！閉幕後も一部保存をすると政府が発表していますが、未来に残るレガシーとなるか負の遺産となるか、論争は続いています。

パビリオンは国ごとに個性的で、外観を見ているだけでも楽しく、大屋根リングの上から眺める景色は世界が円の中に凝縮されたような風景として目に映り、印象に残っています。ミヤクミヤクは“意外と”人気でした（失礼だけど…笑）。個人的には、40年前につくば万博（科学万博-つくば'85）に行つた以来、2回目の万博で、貴重な体験をさせてもらいました。世界がリングのように繋がり、平和でありますように！